

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○確かな学力の育成と生徒自ら学習に取り組む授業づくり ○豊かな心と健康な体をはぐくむ教育の充実 ○進路指導の充実 ○信頼される学校づくり ○保幼小中一貫教育の推進による教育活動の充実		「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、年間として目的意識を持たせる学校生活を送らせることができた。結果、行事等で力を発揮した。また、仲間を思いやる態度も育ってきた。 さらに目指すべき事項として、新たな時代に対応できる自己肯定感や自己有用感をより高め、目的達成に希望をもって向かい、学校生活で共に協力し、積極的に取り組む力をつけさせたい。	生徒ひとりひとりが高みを目指し、生き生きと挑戦する学校を創る ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で高みに挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒が自らの可能性に様々な機会を捉えて挑戦することを促す。 ○それぞれの教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が主体的に行動することで、高みを目指す。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
学校教育指導の重点 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・全ての教科でタブレットなどICT機器の活用スキルを高め、生徒指導上の実践上の4つの視点を生かした授業改善を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ・発達段階に応じた指導目標に基づき、指導と評価の一体化した取組を、ICT活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・タブレット等を活用した生徒主体とする授業改善を進め、家庭学習とも関連付け、自ら学ぶ意欲の醸成を図る。	○教育活動全般で調べ学習や発表資料の作成など、ICT機器を有効に活用した実践ができた。 ○生徒同士の対話から課題解決の方策を見つけたり、ICT機器を活用して課題解決につなげたりと、生徒自らが学ぶ意欲の醸成が図れた。 ○タブレット活用により、生徒個々の進度に応じた学習活動が保障できた。 △多くの情報があふれる中で、情報機器を使った調べ学習で得た内容の取捨選択が課題である。
	生徒指導	・日常的な生徒への寄り添い指導や教育相談月間などを全教職員で丁寧に行い、生徒との信頼関係づくりを進めるとともに、子どもが主体となる学習環境を整備していく。いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめ調査の結果等を基に丁寧な組織的対応・指導に努める。 ・「丹後学」等を活用した生徒の協働的な活動の場の充実を図り、未来の担い手として「将来の社会的自立」に向けたキャリア教育を進める。	○登下校時の教師によるあいさつや、休み時間の場面で日常の会話を通して、生徒との関係を築くことができた。その効果もあり、生徒が何事にも主体性を持って活動する場面が増えた。 ○定期的にいじめ防止対策委員会を持ち、生徒に寄り添った指導と、未然防止に努めた。 △「丹後学」を通して、探究的な学習を行ってきたが、さらに将来に向けての展望を切り拓く力を身に付けさせる指導が必要である。

健康（体育）・安全	・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育て、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の確立に向けて、丹後学園全体で指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。	・体育系・文化系部活動にかかわらず、高みに挑戦する心を持たせ、目的を達成しようとする態度と豊かな心の育成を図る。 ・丹後学園一貫 PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（NHD）や登下校指導を継続する。 ・生徒の安全、安心な学校生活のために、安全点検の実施と命に係る授業を実施する。	○部活動を通して、勝敗に立ち向かう強さを培うことができた。文化面では書道パフォーマンスや能、落語体験など幅広い体験の場を作り、生徒の心を揺さぶる指導ができた。 ○丹後学園の諸活動を生徒の取組に乗せ、自ら挨拶する態度や地域とのつながりなど、生徒、地域がかかわり合えるきっかけとなった。 △安全点検後の環境改善につなげることが組織として不足した。（点検後の確認）
開かれた学校づくり	・保護者、地域への学校公開等を計画的に行い、地域と共にある学校教育を目指す。 ・学校・家庭・地域との相互の連携を図り、生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。	・様々な教育活動の参観を保護者や丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただくご意見や感想を学校経営に活かす。 ・「丹後学」などで丹後を元気にする提言をテーマに探究を進め、地域の取組への積極的な参加を行い、学校だより等の地域回覧・全戸配布や、学校HPへの掲載を通じて、学校教育の充実と地域の活性化の両方を目指した啓発を行う。 ・地域学校協働本部等を活用し、支援ボランティアの支援を積極的に活用する。	○地域の各委員様を招聘した懇談会を年2回開き、いただいたご意見を教職員で共有し、学校運営に活かした。 ○「丹後学」で行った学びを校内作品展示で披露できた。また、発表会にも地域の方をお招きして参観していただいた。 ○地域ボランティアとして、5つの部活動でお世話になり、競技力向上が図れた。また、図書整理、読み聞かせでは年2回お世話になった。
特別支援教育	・人権教育をベースとして、生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人一人の特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・丹後学園や関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。	・特支学級の生徒と通常学級に配慮を必要とする生徒に対して具体的にアセスメントし、個々の課題に応じた指導・支援を保幼小中の一貫性・連続性を大切に行う。全教職員で課題共有を大切にし、定期的に校内委員会を開催し、組織的な支援を行う。 ・丹後学園内の連携や専門的見立てなどをもとに、校内研修や学園研修会などの充実を図る。また、切れ目なく学ぶことができる教育を進め、子どもの自立へ向けた適切な支援により認知能力と非認知能力の一体的な育成を目指す。	○支援に対するプロジェクトの指定を受け、専門家の見立てを基にした自立活動の計画、全体への発信を行い、組織的な支援ができた。 ○通常学級に在籍する配慮を必要とする生徒への支援について定期的に部会を持ち指導の統一を図った。 △校内委員会を定例化することが時間割の関係上難しかった。 △丹後学園として生徒の状況を交流、組織的な支援を検討する場面設定が不足した。
次年度に向けた改善の方向性	・学園共通学習指導の重点「子どもの主体的な学びの変容」を重点とした研究を進めていく。（児童生徒の状況交流と指導法） ・活発な特別活動を重視し、行事・部活動で子どもの活動を支援できる指導体制を整え、生徒が「自ら挑戦」する意欲と行動力を育成する。 ・個々の生徒に寄り添う指導を組織的に行い、不登校や不安を抱えている児童生徒が学校に来やすい環境整備と指導体制を整える。		